

第38回九州大会 出場チーム出そろっポイストリーグ

中学生の部

優勝で2年ぶりの九州大会出場を決めた八幡南ナイン



「第38回九州大会」中学生の部に出場する16チームが出そろった。代表2枠の北九州支部は八幡南ポイスト(2年ぶり)と小倉ポイスト(同)、同じく2枠の福岡県北支部は飯塚ポイスト(3年ぶり)と鷹羽ポイスト(2年ぶり)、代表1枠の熊本県支部は熊本光の森ポイスト(初)、同じく1枠の鹿児島県支部は薩摩南海ポイスト(3年ぶり)が出場を決めた。本戦は11月5、6日、大分市の別大興産スタジアムなど大分県内の4会場で行われる。

【中学】北九州支部予選(秋季九州大会)
(12月10日、山口・美祿市民球場ほか)

▼決勝

八幡南	0001104	6
小倉	0010000	1

【南】柿原、梶原、内木場、本間
【小】田中、石井、橋本

梶原が投打に活躍

八幡南は決勝で小倉に逆転勝ちし、2年ぶりに優勝を飾った。1点を追う4回に葉山正汰の適時打で追いつき、5回に相手のバツテリーエラーで勝ち越し。7回には梶原大和の適時打などで4点を加えた。守っては先発右腕の柿原倫也が3回1失点。4回以降は梶原と内木場陽也の両左腕がセロに抑えた。

梶原は4、5回の2イニングをパーフェクトと好救援をみせた。「次に点が入った方に流れがいくので、絶対に抑えようと思った」と話した。7回の攻撃ではため押し遅れたけどいい所に飛んだと振り返った。

決勝の7回、適時打を放つ八幡南・梶原



4回に同点打を放った葉山は、準決勝は4番で出場したが無安打に終わり、決勝では6番に降格した。「半分悔しくて、半分肩の荷がおりた気持ちで、次につなぐことに徹した打撃が好結果につながった。次は4番で打ちたい」と意欲を見せた。

投手陣安定感光る

古賀哲也監督代行が「投手中心に守り、攻撃につなげるのがチームカラー」と話すように、全4試合で計4失点の投手陣がチームを支えた。決勝で登板した3投手に加え、準決勝の宇部戦で4回1失点に抑えた右腕・柴田翔大がおり、左右に好投手がそろっている。九州大会は5度目の出場。野中暁人主将は「ベンチみんなで一丸となって勝った。その流れを九州大会にもつなげて九州制覇を目指したいと力を込めた」。



決勝で3回1失点に抑えた先発の八幡南・柿原

▼1回戦

八幡南	1010041	17
上津役	1000000	1

【南】梶原、内木場、本間【上】中谷、満行、広田、広渡、渡辺
三塁打||柴田佳、葉山(南)▽二塁打||本間(南)

▼2回戦

八幡南	20307	112
八幡東	00100	1

【南】柴田、柿原、本間【東】湯川、能津、大山、蔵内、井出▽三塁打||梶原2、葉山(南)▽二塁打||折立、柴田(南)

▼準決勝

宇部	1000	111
八幡南	722X	111

【宇】林、守分、磯谷太一、松尾、配川【南】柴田翔、本間▽二塁打||根本(宇)折立(南)

※6回以前に終了している試合は点差や時間切れによるコールド